

浜松まつりとラッパ 歴史解説

市楽器博物館

行進曲独自にアレンジ

浜松市楽器博物館は27日、静岡文化芸術大の奥中康人教授を講師に招いた講座「浜松まつりのラッパの歴史」を中区の同館で開いた。

奥中教授は浜松まつりの「駆歩(かけあし)行」とラッパの関係について、「明治期に消防組がたこ揚げでラッパを使用したのが始まりとされる」と紹介。旧日本陸軍

の「駆歩(かけあし)行」などのラッパ曲が各(浜松総局・吉田直人)

地区ごとに独自にアレンジされ、現代まで伝わった歴史を解説した。

浜松まつりでラッパ演奏を行う磯部謙作さんが祭りで演奏される曲などを披露し、アレンジ部分と原曲の違いを示した。



浜松まつりとラッパの歴史について解説した奥中教授
＝浜松市中区の市楽器博物館

